

国道156号線渋滞時の交通対策について



大田 貢 議員

Q デイリーヤマザキ交差点で寺尾駐車場に直接誘導しては？

A 過去に寺尾駐車場への実験を致しましたが今の手法が最良であると言うことで現在に至っておりますが、ご意見を参考に混雑時の駐車場の誘導がどうあるべきか研究してまいります。

(吉實観光振興課長)

Q バスターミナル交差点で飛騨農協まで進ませないで直接岐阜方面へ誘導しては？

A 電光掲示板を設置して駐車場を案内し、集落内への誤進入を防ぐ対策を行っています。更には横断幕を設置し、その効果を確認しております。現在の方法で継続していきたいと考えております。

(吉實観光振興課長)

Q 寺尾駐車場のシャトルバスは必要無いのでは？

A 安全面や観光客の満足度を考慮し、シャトルバスの運行は引き続き重要と考えております。

(吉實観光振興課長)

Q 国道156号線渋滞時は仮設トイレの設置が必要だと思いますが？

A 更に渋滞を招くため仮設トイレの設置は検討しておりません。

(吉實観光振興課長)

Q 高速道路を出て白川郷道の駅までに情報提供案内板の設置が必要だと思いますが？

A 観光客が事前に渋滞情報を把握できるように観光庁の補助事業を活用し、新たな混雑情報発信サイトを開設予定ですので、今のところ設置は検討しておりません。

(吉實観光振興課長)

道路維持管理について

Q 国道156号線大牧地内から野谷地内の景観がなぜ綺麗なのか？

A 岐阜県花街道整備事業を活用し整備したエリアになります。現在村内全体で2.59ha程度修景整備を行っています。

(高島産業課長)

Q 道路の草刈りは大変な作業ですが業者に対して見合った見積もりは？

A 業務に見合った設計になっており、適正な設計額であると考えております。

(高島産業課長)

Q 国道156号線沿い全体を花街道整備をしては？

A 地権者のご理解が得られないケースもありますので予定した箇所全てが事業化されるものではありません。現在森林整備計画を策定中であり積極的に修景事業を実施していきたいと思っております。

(高島産業課長)

白川村地域防災計画について



平田 律代 議員

Q 白川村地域防災計画の検証、見直し等が必要な時期ではないかと思えます。又、自主防災組織の強化、リーダーの発掘と育成等についての実績をお答えください。村民の方々の危険を感じる力、自分の命を守る行動をとるといった防災意識の強化が必須です。行政としての努力を継続してほしいと思えます。

A 今回、避難所の一部を変更いたしましたので、役場内の組織改編に伴う修正と共に一部改正を実施します。又、検証につきましては担当課で検討いたしますが、現時点では考えておりません。

自主防災組織につきましては、現行の「区(自治会)」が主体となるのがベストと考えており、区長さんなどと協議、検討してまいりたいと思っています。住民の防災意識の強化はどちらの自治体でも永遠のテーマであると考えます。難しいことではありますが自分の命は自分が守るという意識付けにむけて努力したいと思えます。

(成原総務課長)

防災士育成の取り組みについて

Q 防災士資格が注目されています。学園の7.8年生希望者に資格取得支援を実施し、次世代へ知識を継承していくシステムを構築してはいかがでしょうか。

又、役場職員の一定数に資格取得者が必要と考えます。消防団だけに頼らず、女性の防災士も必要です。危機管理の一環として自治体の評価にも繋がります。ぜひ防災士資格取得にむけての理解・支援をお願いしたいと思えます。

A 学園の児童生徒の全国規模検定試験については費用の半分を助成しております。希望者に対しては資格取得への補助が出来ないか検討したいと思えます。

(田口教育員会事務局長)

A 役場職員の約9割の男性が消防団員またはOBであり、公務として防災士資格を取得させることについては今後協議が必要と考えます。

(成原総務課長)

A 学園の生徒は学問や部活など多忙なため現実的には難しいと思えますが、希望者には支援も可能と考えます。

(宮丸教育長)

A 村内の事業所さん等に協力を仰ぎ、資格取得にむけて前向きに考えていくのが策と考えます。危機管理の強化、向上は最も大切なもののひとつです。しっかりとした検討が必要と思えます。

(成原村長)

世界遺産登録三十年を迎えるにあたって

早いもので来年の12月には世界文化遺産の栄えある登録を受けてから三十年が経とうとしています。



川田 一浩 議員



村では、イタリアのアルベロベッコと2005年（平成17年）3月3日に白川村で姉妹都市の協定調印式が実施されているが、近年では交流事業は皆無に等しい。今後の交流についてお考えをお聞かせ下さい。



今年の2月に大使館経由で交流の再開の提案を受けたが、財政的にもしばらくは見合わせたいと返答しました。姉妹提携自体の終了年はないので、提携を解消する必要もないと考えております。

（吉實観光振興課長）



御殿場市からの茅の取引は平成15年頃から本格的に始まり、現在では村で使用する茅の約8割が供給されていますが、刈手不足により供給量が減ることが危惧されます。今後の御殿場市との民間交流の支援と友好関係の構築についてお考えをお聞かせ下さい。



地域住民の茅不足の課題認識や合掌家屋保存組合を主体とした士気の高まりによって行政としてどのような支援が出来るのかを見定め、合掌財団と共に対応していきます。

（田口教育委員会事務局長）



村の茅刈り職人が今後は生業となるように継続的な支援も必要であると思われるが？



関係団体とも連携しながら継続的な支援を考えて行きます。

（岩本副村長兼合掌財団理事長）



過去に開催された記念事業では、子ども未来会議によってふるさとの将来あるべき姿について子供達から多くの提案を頂いたように記憶しております。来年の世界遺産30周年を迎えるにあたって村としての記念事業についての考え方をお聞かせ下さい。



菅沼、相倉との連携の強化と世代を超えて取り組める企画が望ましく、地域住民が主体となる記念事業を計画できるように南砺市との行政連携を深めたいと考えています。

（田口教育委員会事務局長）



記念事業として合掌造りのカタキリが小茅で葺けるような小茅場の造成や屋根葺き技術の伝承が図れる合掌づくりの屋根葺きも考えて頂きたい。

小規模農業就労者への支援策について



白川村の農業者数が平成27年に比べると約2割弱減少しています。原因としては、高齢化による作業負担の厳しさや農業機械の買い替え負担など農業をやっても儲からない、「買って食った方が安くつく」と言った収支採算ベースなど様々な要因があるかと考えられます。そこで、国の施策と逆行するかもしれませんが、出来得る限り農地の所有者が就農を継続出来る仕組みを支援して行くことも「持続可能な農業の促進」に繋がるとは思いません。現在、白川村の農業就労者の減少が数字で顕著に表れている中、どのように減少率を食い止めるのか？今後の農業振興について総合的な戦略について村の考えをお聞かせ下さい。



田舎暮らしを求める移住者を新たな担い手として受入れることを視野に入れていきます。また、自家消費メインの小規模農家への補助制度はありませんので、村単独で小規模農家への農業機械整備に対する制度も検討しましたが、補助要綱を策定するにあたって公平公正な制度になるか疑問点を排除できないので、引き続き研究して参ります。農地の景観保全については、地域全体でご協力をお願いいたします。

（高島産業課長）



年若いとも農業が続けられるように生きがい支援としての手立てをお願いしたい。

住民のくらしと観光 観光の負の側面が見えてきた？



坂本 正代 議員

Q ヘリコプターの遊覧飛行が始まって7年、新しい観光のかたちとして定着してきましたが、ここにきて離発着の騒音や所有の住宅周りの管理に改善を求める声が上がっております。企業との向き合い方について村の考え方をお聞かせください。

A ヘリコプター運航事業者とは、災害時の物資運搬や避難協力に関する協定を結んでおり企業版ふるさと納税などで村に貢献しております。村として事業者に対しては適切な管理の徹底を求め、必要に応じて地域との協力体制を築きながら、環境改善に向けて取り組んでいくことを求めています。

(吉實観光振興課長)

旧デイサービスセンター・平瀬保育園・森の食彩館 白真弓の3施設の今後について、活用か取壊しか!!

Q 南部地域には、役割の終えた施設が残されています。活用するのか取壊すのか、村はどんな考えを持っているのかお聞かせください。

A 旧デイサービスセンターについては、老朽化等もあり再利用にはかなりの費用がかかり令和4年度当初予算において解体工事費用を計上する予定でしたが、補助金返還になるとの指摘もあり、現在に至っております。

(古田村民課長)

A 平瀬保育園の今後については、平瀬区の意見を踏まえつつ地域の要望に応えるよう活用方法を検討していきます。

(田口教育委員会事務局長)

A 森の食彩館白真弓については、撤去すべきか民間利用も含めて他の利用方法がないか検討中でありませう。

(吉實観光振興課長)

観光客を官民一体でおもてなし!!



宮部 俊典 議員

Q 世界遺産集落に向かう道路の雑草が目立ち、観光客の印象が気になります。「おもてなしの精神」を意識し、官民一体で整備に心がける事が世界遺産継続の重要事項と考えます。

A 道路維持にて、高速道路を降りてからは高山土木事務所で草刈りを実施します。国道沿いも支障が見られればその都度対応します。地域の方が行なう場合は、法的規制はないが自己責任となります。

(鈴口建設課長)

総合戦略のかなめの課題の必要性!!

Q アパート建設」問題は進展なく、現状に至っており、村の総合戦略の重要項目であり、取得した用地を含め今後どのように様に考えるか。

A 村としては、この問題を重要視しており、地域の住宅供給や生活環境の改善に向け用地を活用し、民間デベロッパーによるアパート建設誘致を今後も進めて行く事を基本とし、また地元企業による民間アパート建設に関しても進めていきたいと考えております。

(吉實観光課長)

村民が安心して暮らせるための重要課題!!

Q 養豚場の臭気問題は解決策がない状態で現状に至っており、行政としては様々な方策を試していますが効果が出ていません。「臭気0」が目標ですから、今後あらゆる方向性を考え、早期解決に望んで欲しい。

A ご指摘のとおり完全解決には至っておりませんが、年々感知される臭気の強度は減少していると判断できます。現状農場側と追加対策を引き続き検討し、次亜塩素酸水噴霧による対策を進めるとともに、来年度高さ3m程度のフェンスで農場全体を囲む事を検討しております。引き続き専門家等の指導をいただき、解決に導けるよう取り組んでおります。

(高島産業課長)

議会提言書の回答は？



森崎 敏克 議員

Q 荻町世界遺産集落内の集落景観を損ねている危険家屋や空き地に対しては、これまで所有者の責任に委ねられ続けてきた経緯があります。伝健保存地区における危険家屋の除去について、それに係る助度の見直しなど白川郷合掌造り集落整備事業助成検討会で進められたい。という提言をしました。それに対して詳細の回答は？

A 世界遺産地域において生じる危険空き家の除去については、景観障害物の除去として世界遺産保存寄付金を投じることを前提に、補助金の上限はなし、補助対象経費は「取壊し及び取り壊した際に生じる廃材処分費」とし助成割合は10分の7以内とさせていただいております。相続人が不明、不在等の特別な事案については助成検討委員会にて協議、決定したいと考えております。

(田口教育委員会事務局長)

危機管理体制は？

Q 近所の消火栓が5月に故障したまま現在まで放置されています。万が一の対応は？防災機器の管理体制はこれでいいのか？

A 資材が特別のため納品に時間がかかり現在に至っております。故障した消火栓は、給水口から水漏れしており閉まらない状態ですが、水を出すことはできるので消火に関しては問題がありません。しかし、地域の方にはご心配やご不安をおかけしており、大変申し訳なく思う。

(鈴口建設課長)

Q 防災機器等の管理においては、危機管理意識を高く持って臨んでいただきたい。

これが私の生きる道 ~ どうしてあなたは、白川村に? ~

ご縁があって白川村に来てくれたあなたに本音のインタビューをさせて下さい。みなさん、こんにちは今回は7人目の方にインタビューさせて頂きました。忙しい中ご協力ありがとうございました。さて、今回はどのような答えが返って来たのか!? 人生色々考え方も色々です。白川村に住んで7年どんな思いや感想を持っているのか語って頂きました。これが私の生きる道この記事を読んで何かしら感じ取っていただいたら幸いです。

Q 村に住むことになって辛いと思ったこと、そんな時とった行動やエピソードは?

A 何と言っても寒さです。暖かくすればいいだけですが……。寒すぎて毎日背中やお腹に3枚程カイロを貼り、また足用カイロも貼り、何枚も重ね着して過ごしてました。寝る時も、掛布団や毛布など4、5枚重ねてました。(笑)

Q あなたの支えとなったものは、何ですか?

A 家族、ご近所の方々です。色々教えて下さり、声をかけて下さり、本当に助かりました。

Q 村や地域にあるといいな~と思うものは何かありますか?

A スーパーマーケット・コインランドリー

Q あなたは、今幸せですか?

A 幸せです!

今回は移住された方のインタビューでした。暖かい所から見ると白川村の冬は寒さが厳しく大変そうです。生まれ育った私でも日が短く寒い冬は、嫌いですが、あたたかい声を掛け合いながら、心はぼかぼかのままで過ごせるようにしたいと、心からそう思うのでした。

坂本 正代

議会傍聴案内

白川村議会ホームページは
こちらからご覧いただけます。

- 議会定例会(3月・6月・9月・12月)や、臨時議会は傍聴することができます。
- 定例議会の開会時間は、4月から11月が午前9時、12月から3月が午前10時からです。
- 傍聴される方は、開会時間15分前までに総務課までお申し出ください。

- 次回、12月議会定例会の議事日程運営は、12月上旬に白川村議会ホームページで確認することができます。また、一般質問通告の題目についても掲載しています。
- ご確認の上、ぜひ村づくりの議論を傍聴くださいますようお願いいたします。



編集後記

いつも議会だよりをご愛読頂き、ありがとうございます。残暑厳しい日が続きましたが、月や星空が綺麗に見える季節と変わってまいりました。祭りの太鼓や笛の音は、白川村では秋という季節の合図のようです、それぞれの思いと共にあっという間に過ぎてゆくそんな気がします。文化を繋げ心豊かな村づくりを皆さんと一緒に築いて行きたいと思います。今後とも皆さんのご意見ご感想をお寄せください!

坂本 正代

